

2021年3月期 第2四半期
決算説明会資料

2020年11月19日
証券コード:6490



日本ピラー工業株式会社

1. 第2四半期決算の概要
2. 通期業績予測
3. 第2四半期決算の分析
4. 参考資料



1. 第2四半期決算の概要

2021年3月期 第2四半期ハイライト

売上高 13,742百万円 (前年同期比 585百万円減、△4.1%)

- ・ **産業機器関連事業** は、新型コロナウイルス感染症の影響など、輸送機器や石油プラント向け等の需要が低迷。
売上高は4,699百万円(前年同期比12.0%減)となりました。
- ・ **電子機器関連事業** は、新型コロナウイルス感染症拡大防止のためのテレワーク需要もあり、半導体設備投資が堅調に推移。
売上高は8,999百万円(前年同期比0.7%増)となりました。

営業利益 1,772百万円 (前年同期比 33百万円減、△1.8%)

- ・ 電子機器関連事業の増収による下支えはあったものの、産業機器関連事業の減収に伴う減益が影響し、前年同期比1.8%減となりました。

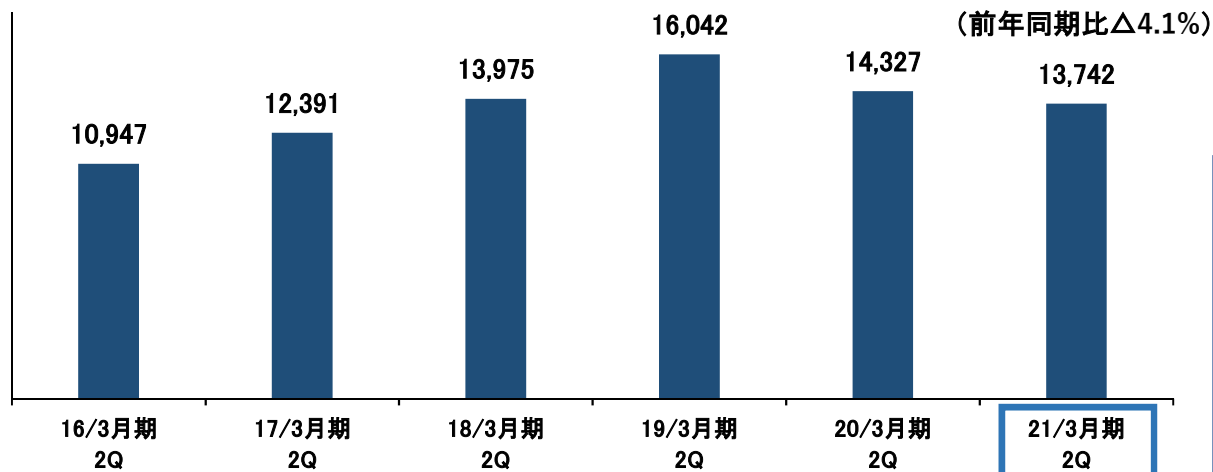
当期純利益 1,303百万円 (前年同期比 15百万円減、△1.1%)

- ・ 減収減益となり、親会社に帰属する四半期純利益は前年同期比1.1%減となりました。

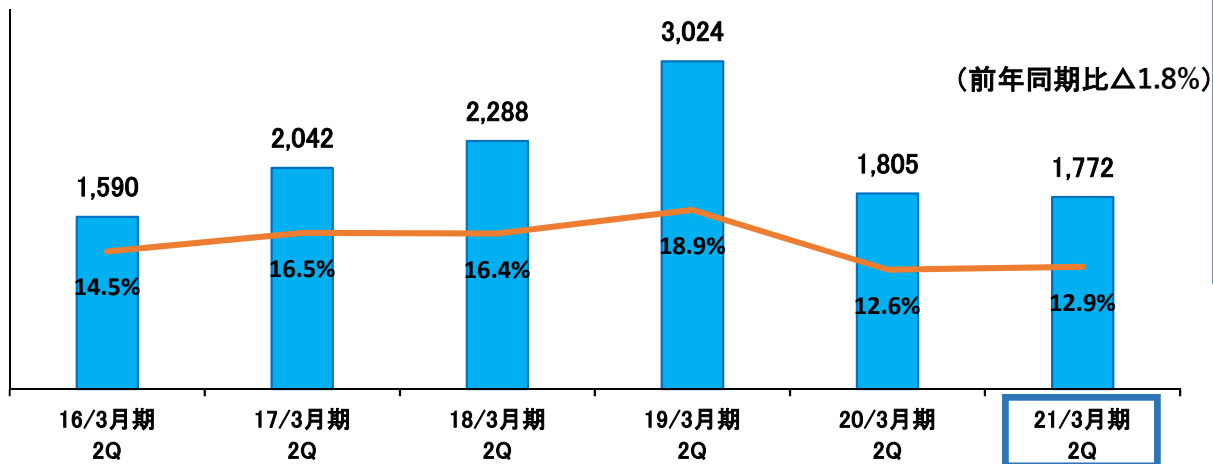
全社業績推移

売上高

(単位: 百万円)



営業利益/営業利益率

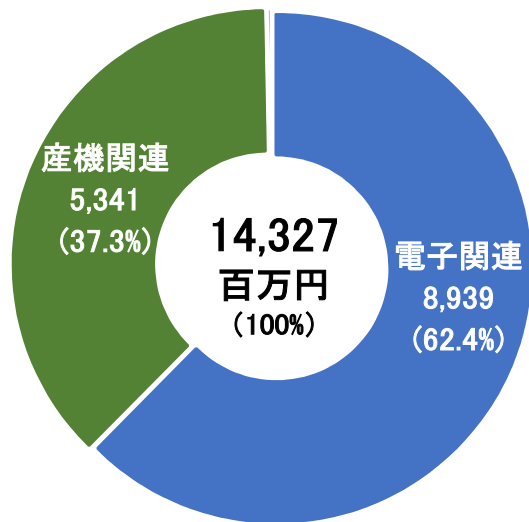


ポイント

- ・産業機器関連事業は世界的な新型コロナウイルス感染症の影響を受け多くの市場で足踏み
- ・半導体市場はテレワーク需要などもあり堅調に推移
- ・2020年3月新三田工場竣工による償却費増加

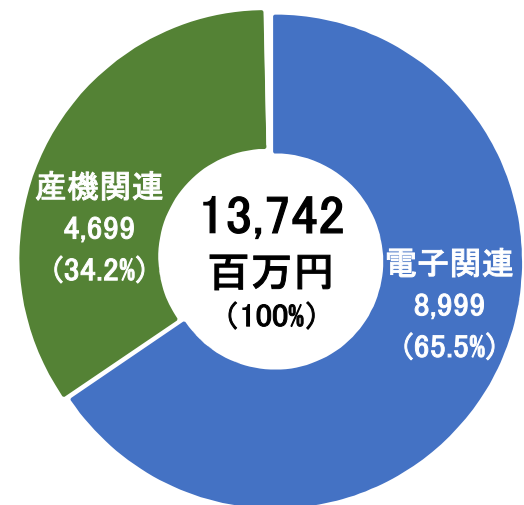
セグメント別売上高

前 期



20/3月期
2Q

当 期

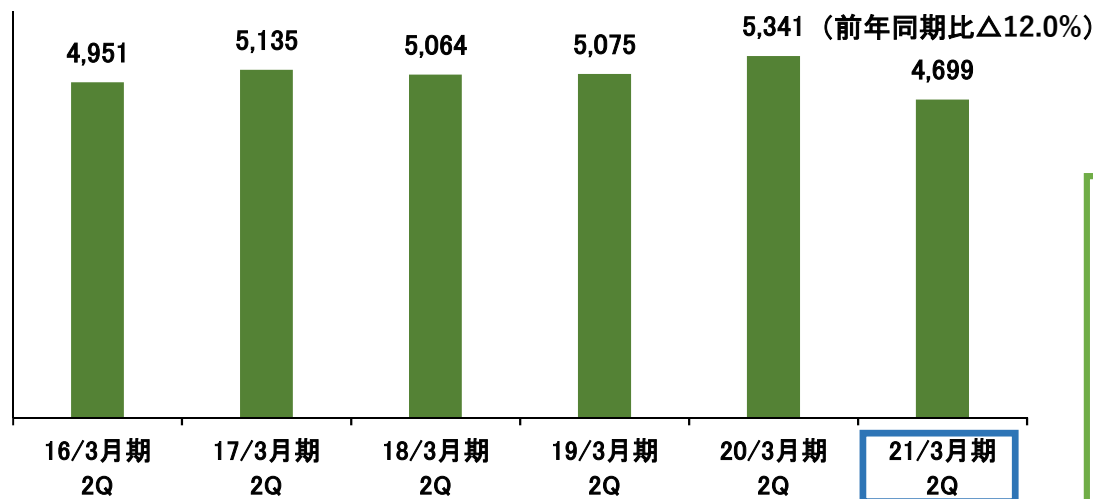


21/3月期
2Q

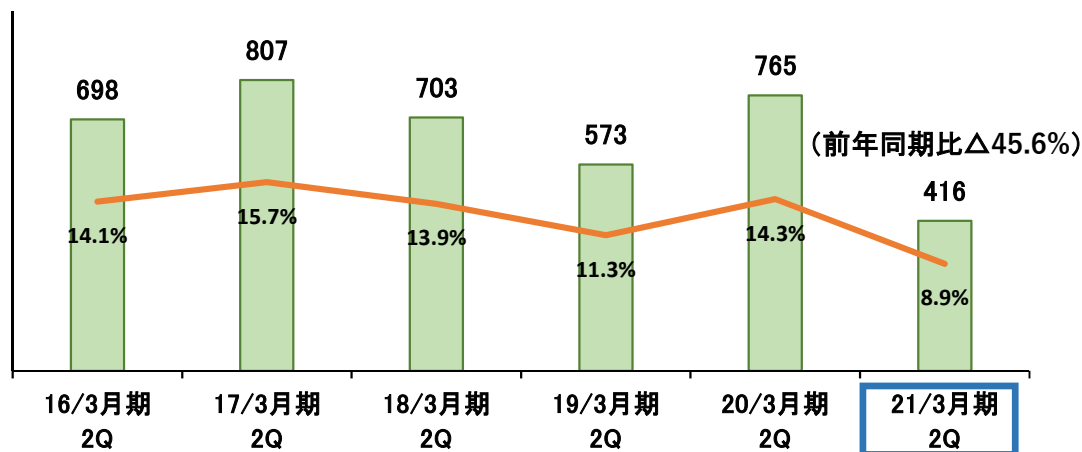
セグメント別業績推移① 産業機器関連事業

売上高

(単位: 百万円)



営業利益/営業利益率



ポイント

- ・コロナウイルス感染症による影響で減収減益
- ・精密機械装置用効ニカルシールは堅調
- ・輸送機器、石油プラント向けを中心に需要減
- ・三田工場リニューアル完了に伴う償却費増加 (2020年3月竣工)
- ・AGV(無人搬送台車)など自動化、省人化に向けた設備の稼働開始

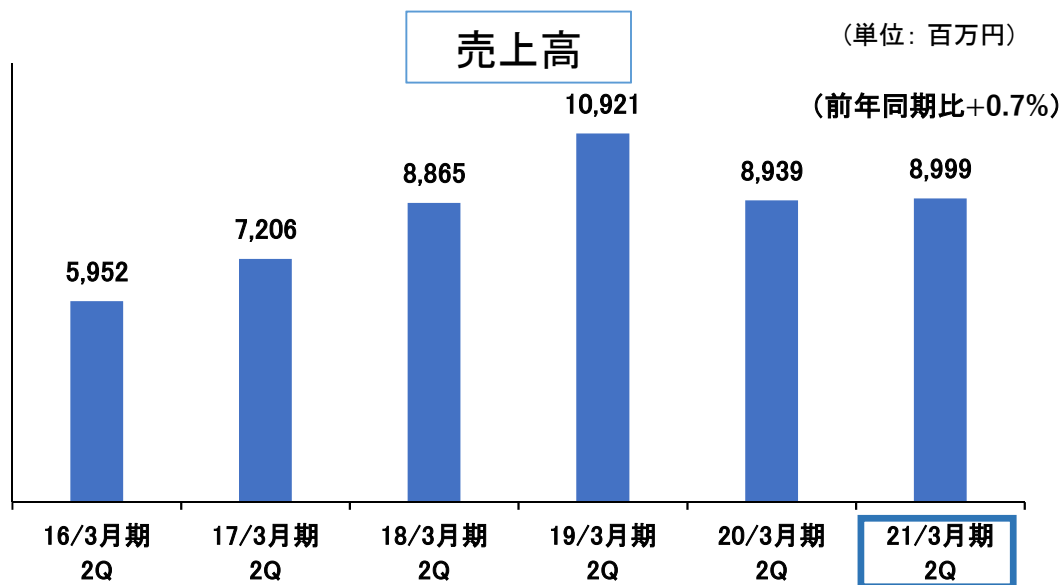
セグメント別業績推移②

電子機器関連事業

売上高

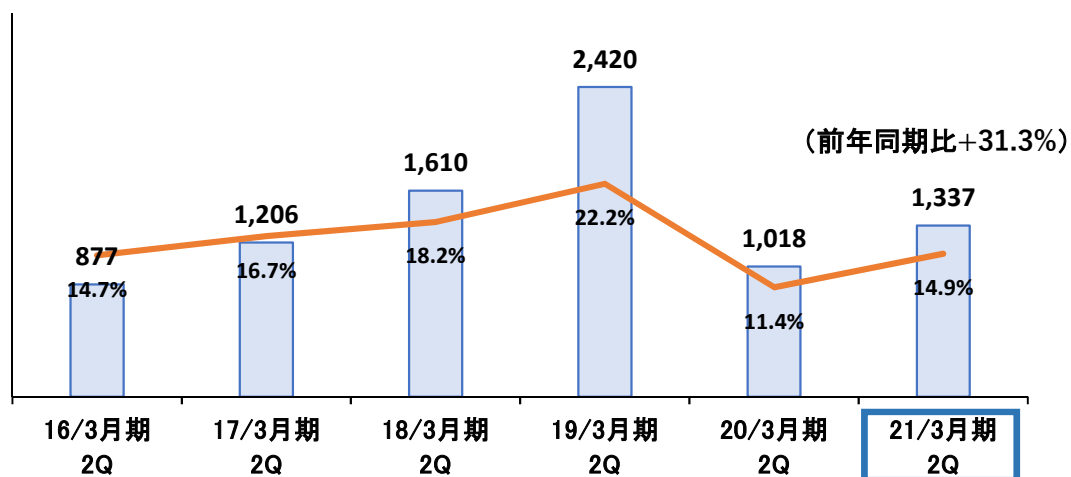
(単位: 百万円)

(前年同期比+0.7%)



営業利益/営業利益率

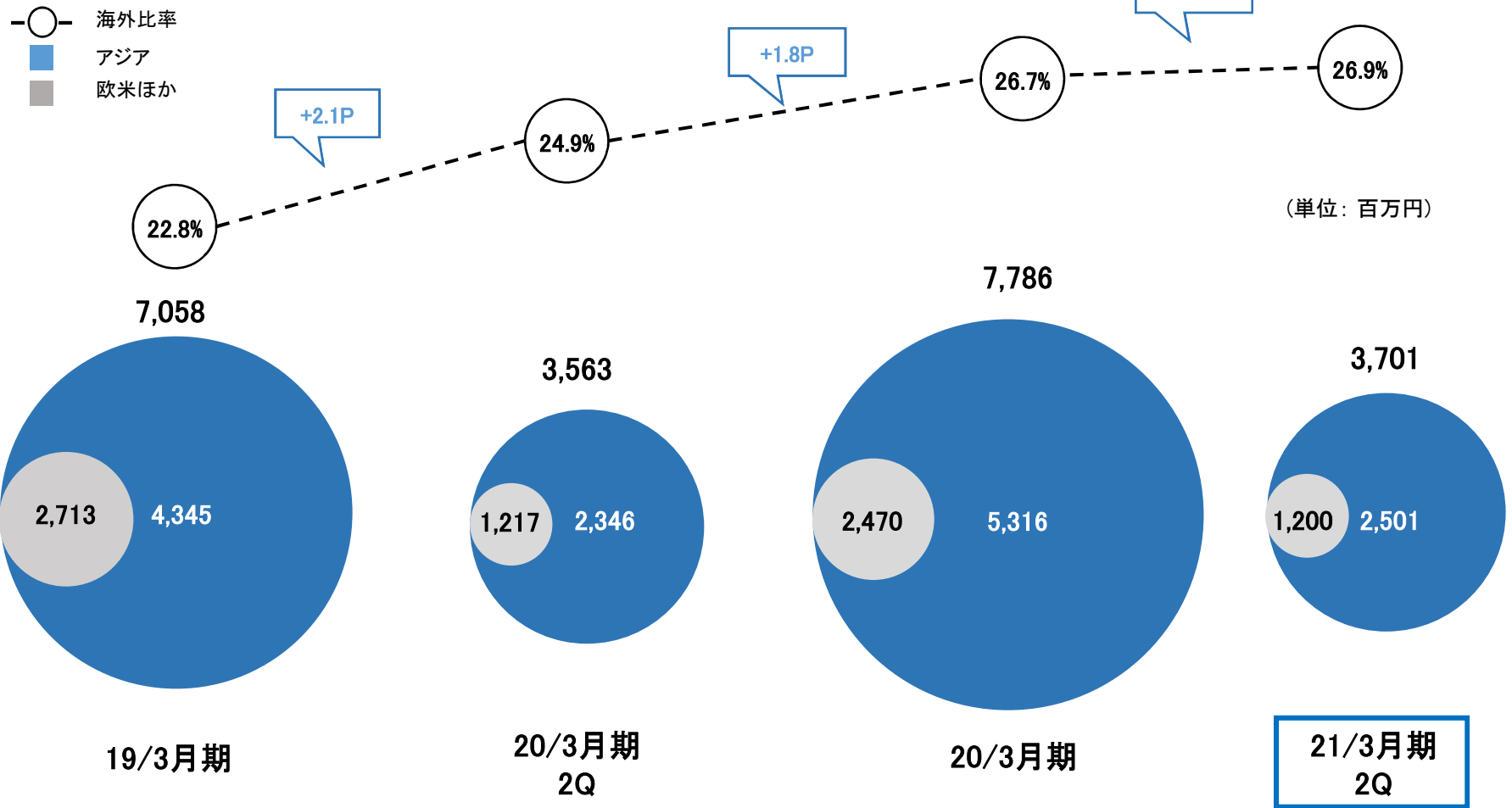
(前年同期比+31.3%)



ポイント

- ・コロナ禍においても増収増益
- ・圧力損失を低減した新型継手を上市
- ・下期からの需要増に向け適正在庫量を確保
- ・継続的な原価低減活動も寄与し増益

海外売上高の推移



TOPICS① 自己株式の取得

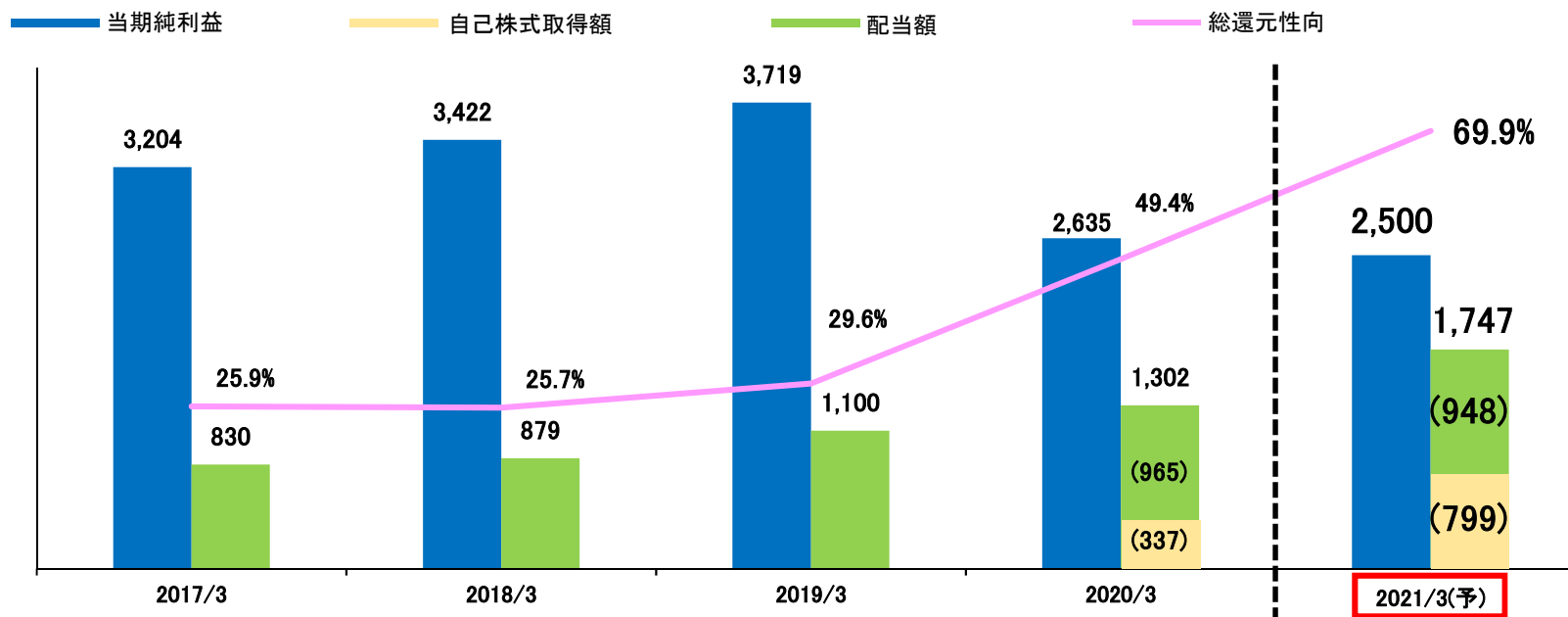
【自己株式の取得状況】

	取得期間	取得株式数	取得価額
第1回	2020年 5月21日 ~ 2020年6月12日	342千株	499百万円
第2回	2020年11月13日 ~ 2021年3月31日	300千株(上限)	300百万円(上限)
合計		642千株※	799百万円※

※それぞれ上限数・金額で取得した場合の数値

当期利益と利益還元状況

(単位: 百万円)



TOPICS② 技術開発センターの建設

新たなイノベーションの創出を図る

建設の目的

将来のマーケットを見据えた製品開発の推進

- (1) 技術の複合・融合による総合シール技術力の強化
- (2) 産官学の連携強化による先端技術への取り組み
- (3) 来訪者への技術力アピール

建設の内容

- ・所在地 : 兵庫県三田市下内神字打場541-1
- ・投資総額 : 30億円
- ・資金計画 : 自己資金及び借入金等により充当

※当該固定資産取得による当期の業績に与える影響につきましては、現在精査中ではありますが、今後業績に重大な影響を与えると判明した場合は、速やかにお知らせいたします。

(予定)技術開発センター竣工までの概要

年月	内容
2021年5月	工事着工
2022年3月	技術開発センター 竣工



(技術開発センター イメージ図)

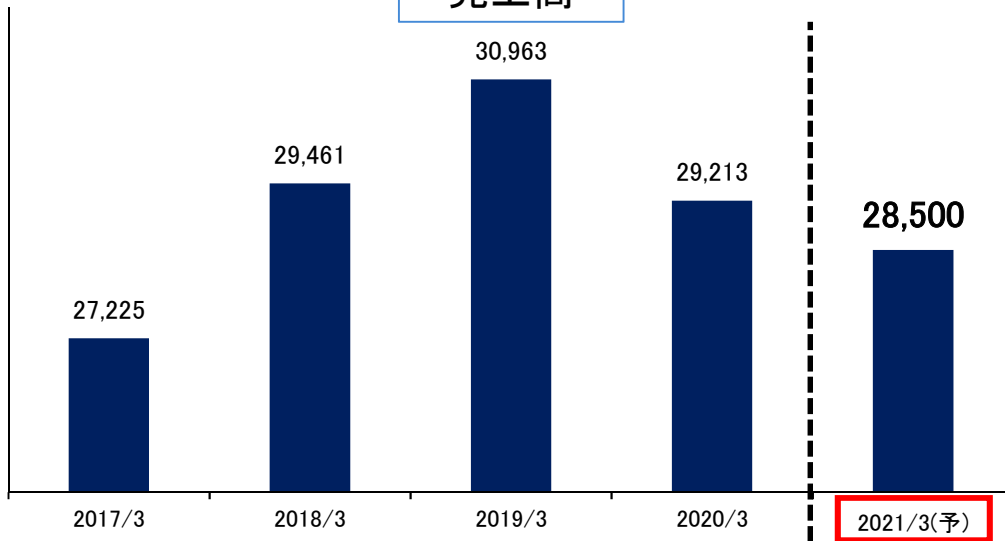


2. 通期業績予測

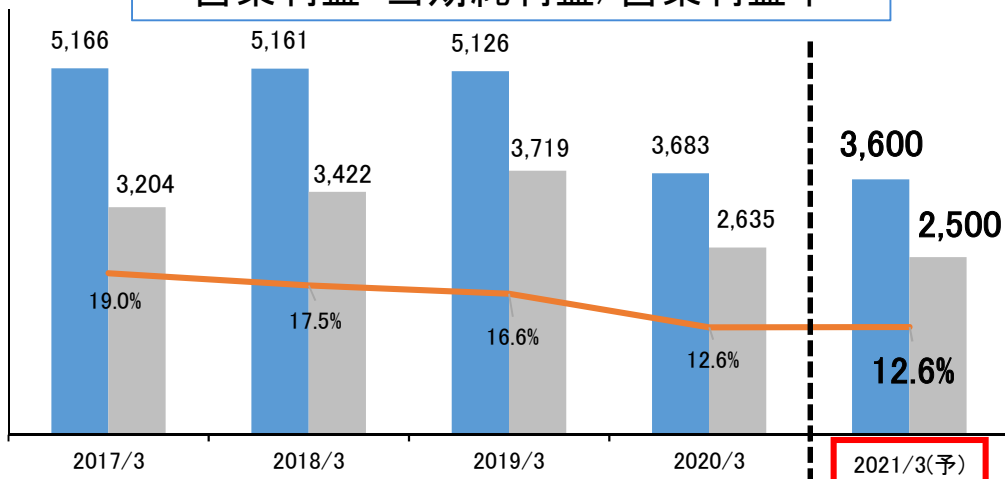
全社業績推移

(単位：百万円)

売上高



営業利益・当期純利益/営業利益率



■ 営業利益 ■ 当期純利益 — 営業利益率

ポイント

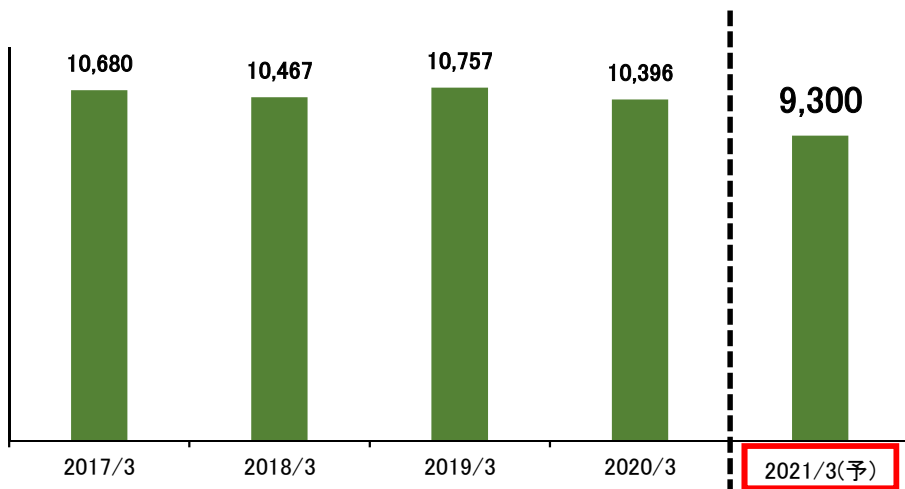
- ・前回発表時より据え置き
- ・産業機器事業はコロナウイルス感染症収束の兆しが見えず下方修正
- ・電子機器事業は下期からの半導体市場復調に期待し上方修正
- ・AGVなど自動化設備の本格稼働生産性向上に邁進
- ・業務改革に着手し生産性向上を図る

セグメント別業績推移①

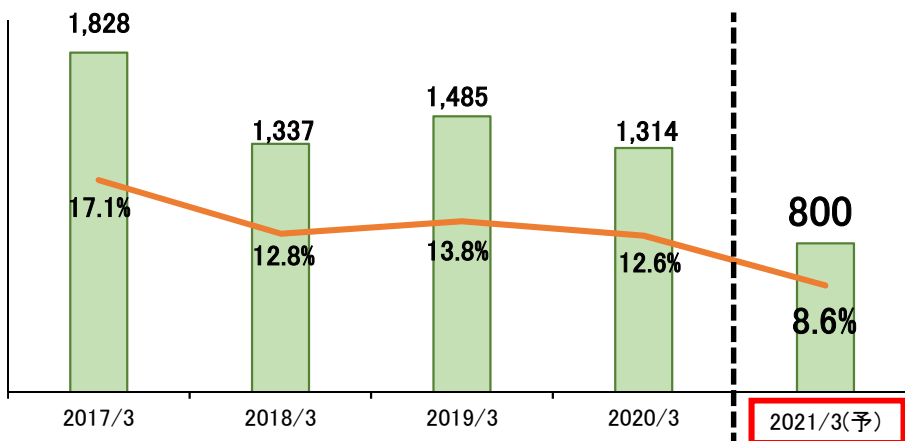
産業機器関連事業

売上高

(単位: 百万円)



営業利益/営業利益率



ポイント

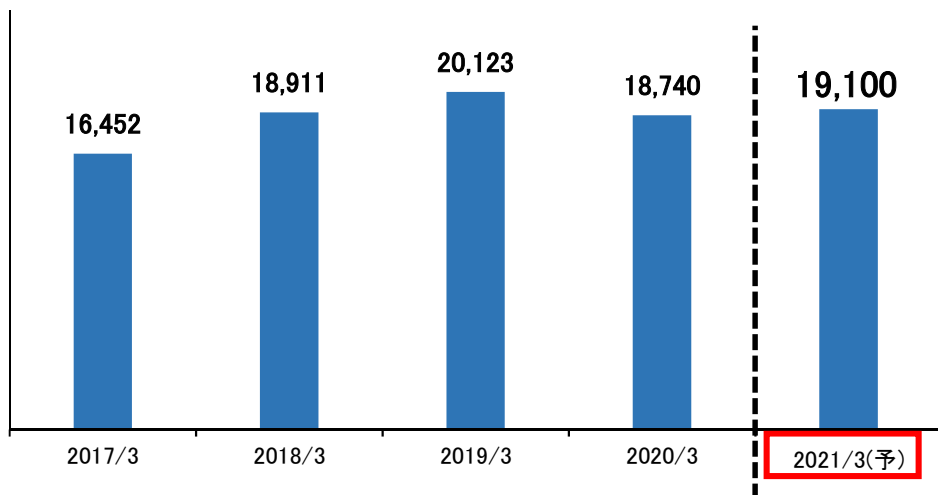
- ・前回見通しより下方修正
(売上高 9,600 → 9,300)
(営業利益 1,100 → 800)
- ・コロナウイルス感染症収束が見通せず、継続して市場の回復には不透明感が漂う
- ・中国市場は復調の兆しはあるものの、全体の落ち込みをカバーできず
- ・精密機械装置用効ニカルシールは堅調の見通し
- ・新三田工場竣工に伴う償却費増加となるも自動化、省人化設備で生産性向上を図る

セグメント別業績推移②

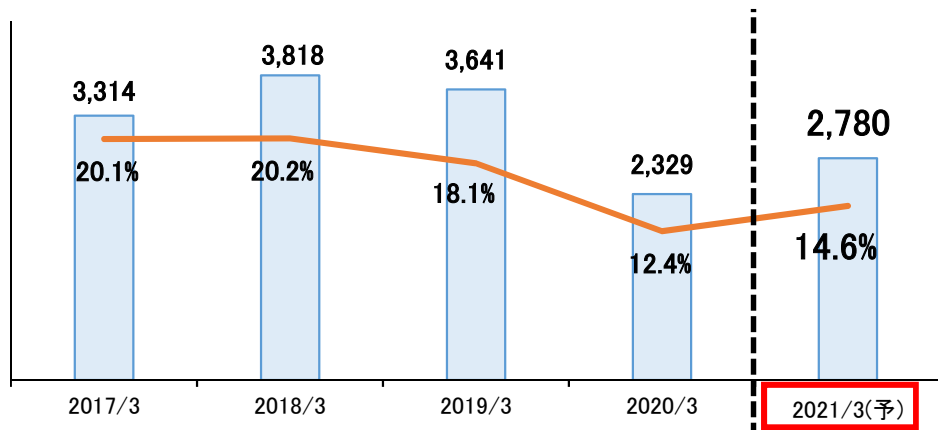
電子機器関連事業

売上高

(単位: 百万円)



営業利益/営業利益率



ポイント

- ・前回見通しより上方修正
(売上高 18,800 → 19,100)
(営業利益 2,500 → 2,780)
- ・コロナ禍のなか、短期的な見通しは不透明ながら、テレワーク需要などの下支えもあり
中長期的な成長見通しは変わらず
- ・5G等向け需要増見据えた増産体制強化
生産設備増強を実施
- ・引き続き米中摩擦に注視



3. 第2四半期決算の分析

第2四半期 業績サマリー

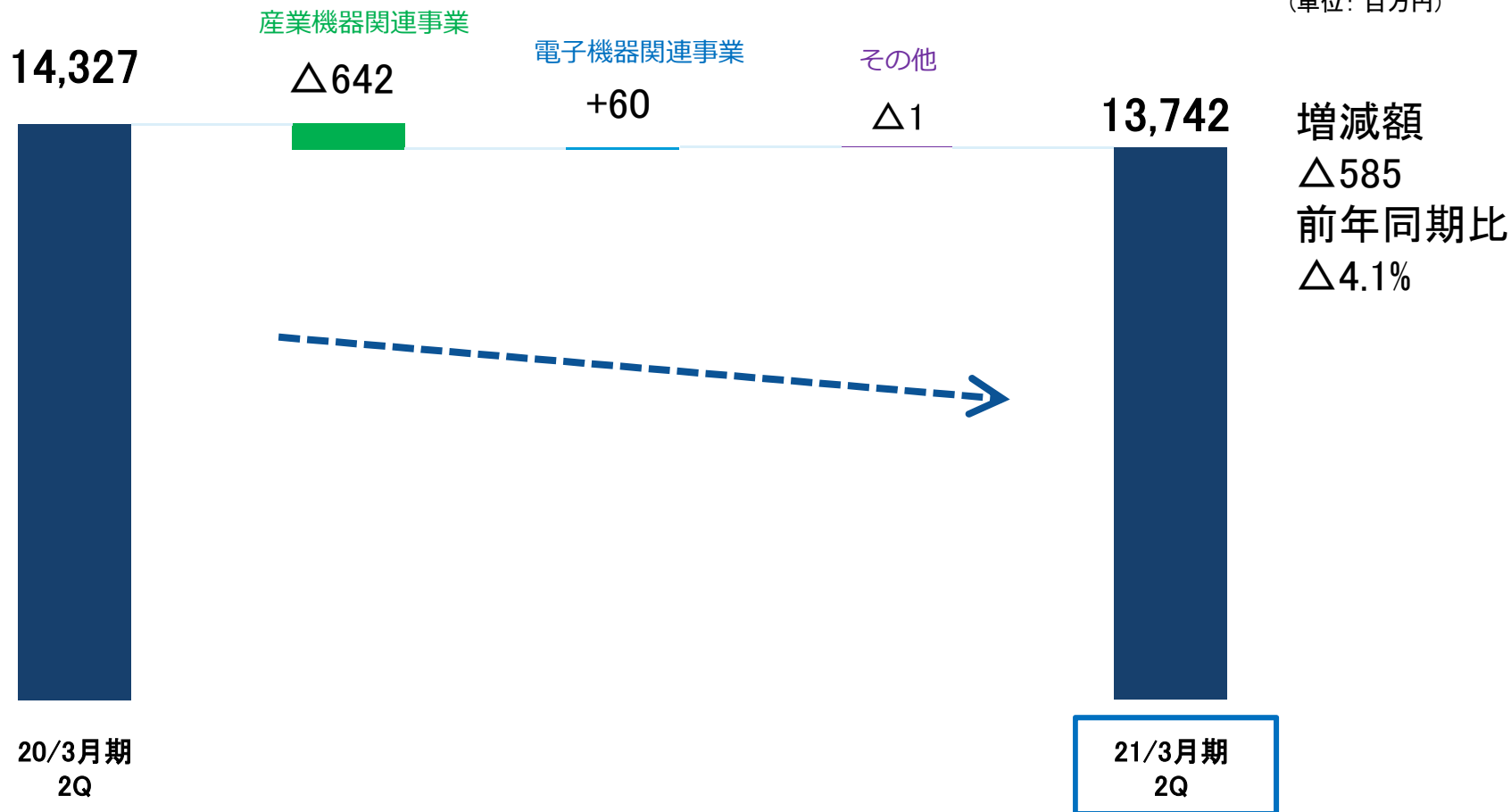
(単位: 百万円)

	2020年3月期 2Q	2021年3月期 2Q	前年同期比	
	実績	実績	増減額	増減率(%)
連結業績				
売上高	14,327	13,742	△ 585	△ 4.1
営業利益	1,805	1,772	△ 33	△ 1.8
営業利益率	12.6%	12.9%	—	—
経常利益	1,806	1,849	43	2.4
当期純利益	1,318	1,303	△ 15	△ 1.1
一株当たり当期純利益	54.05	54.45	0.40	—
配当金	20	20	0	—
セグメント別				
産業機器関連事業				
売上高	5,341	4,699	△ 642	△ 12.0
営業利益	765	416	△ 349	△ 45.6
電子機器関連事業				
売上高	8,939	8,999	60	0.7
営業利益	1,018	1,337	319	31.3

第2四半期 売上高の増減分析

産業機器：精密機械装置用効ニカルシールは堅調も輸送機器・石油プラント向け低迷
電子機器：テレワーク需要もあり半導体設備投資は堅調に推移

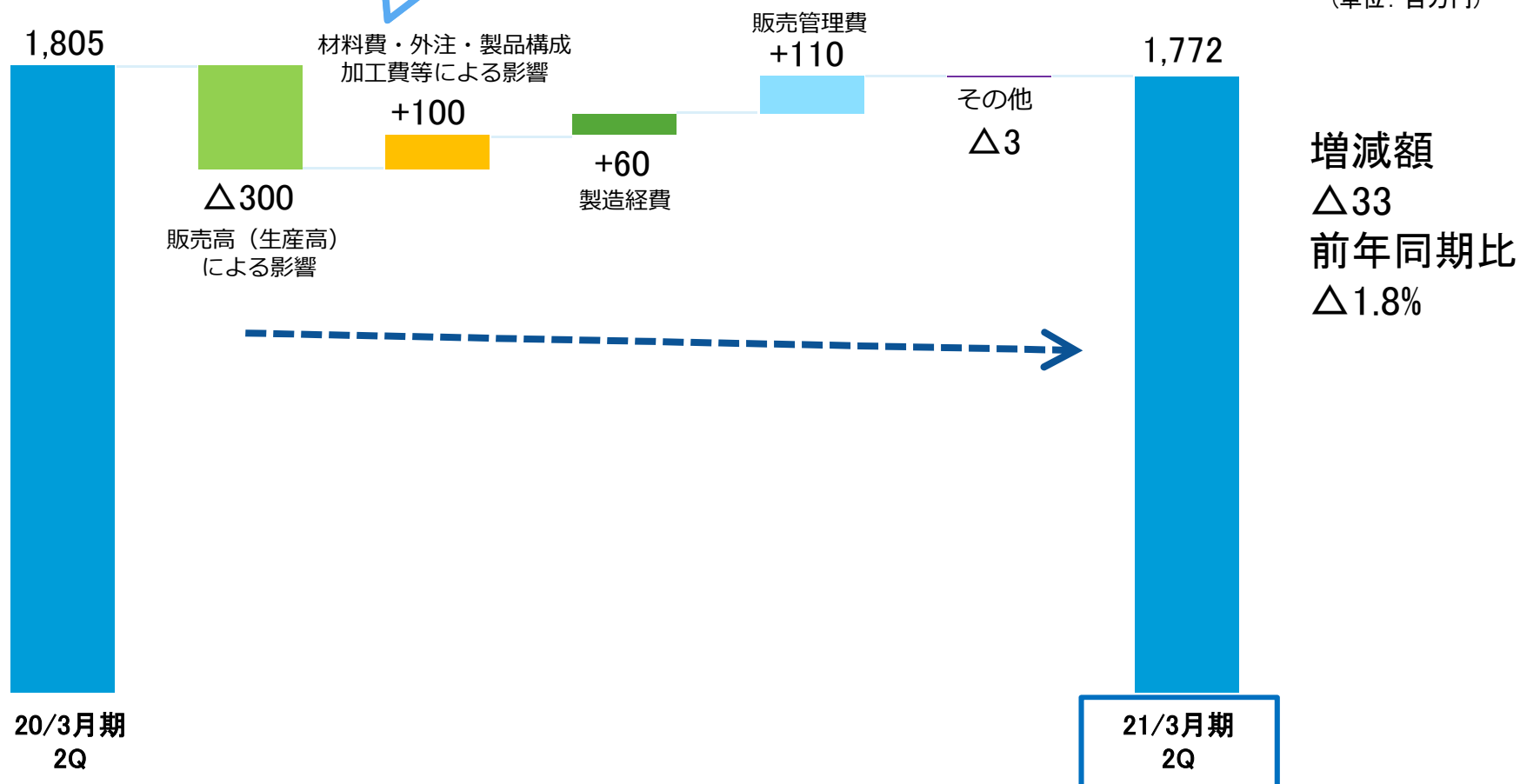
(単位：百万円)



第2四半期 営業利益の増減分析

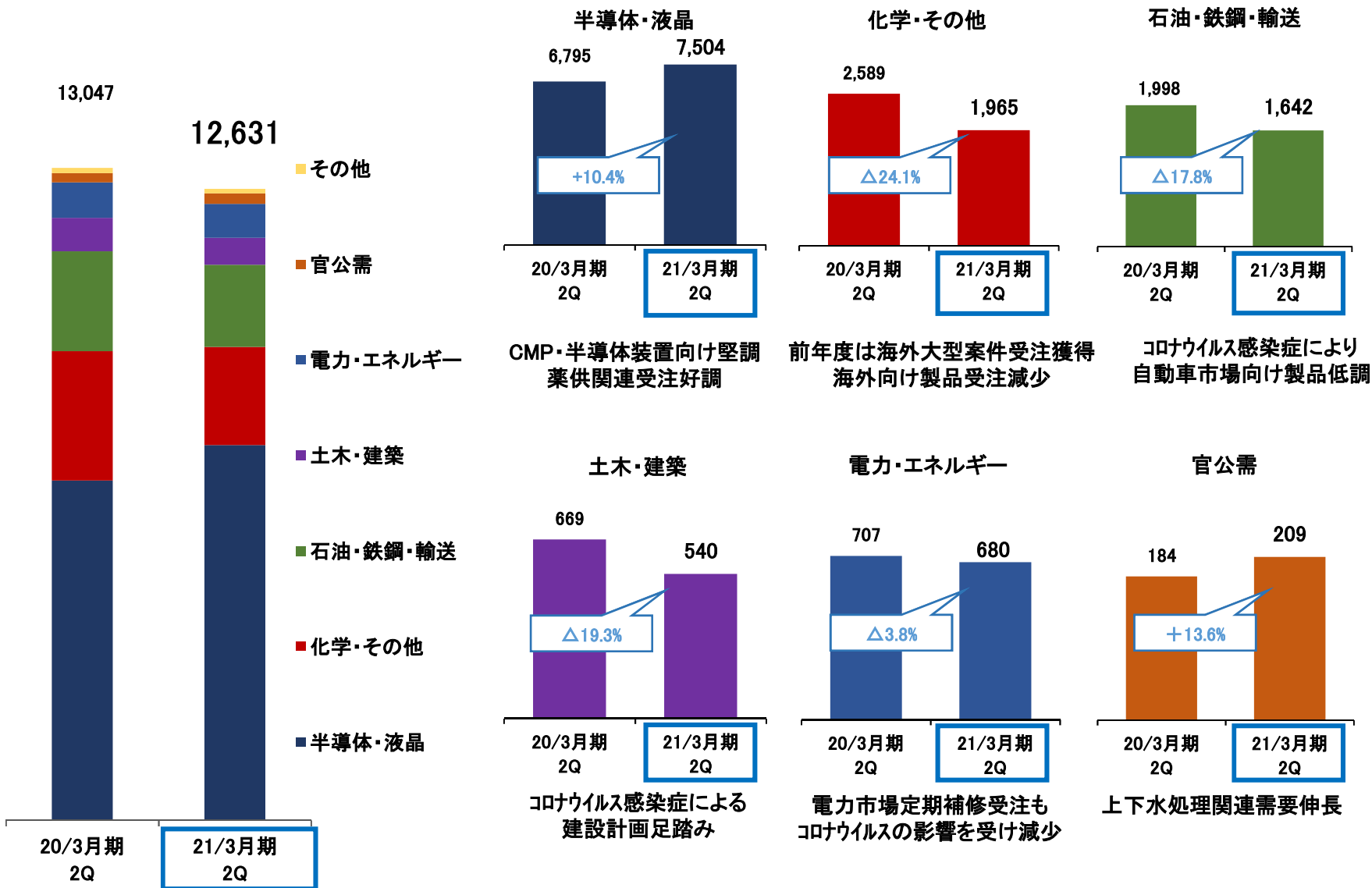
売上高減少による減益が大きく、また新三田工場の償却費が増加するも原価低減活動の推進及び出張等の自粛もあり経費は圧縮され微減

(単位: 百万円)



市場別 売上高内訳 (単体)

(単位: 百万円)

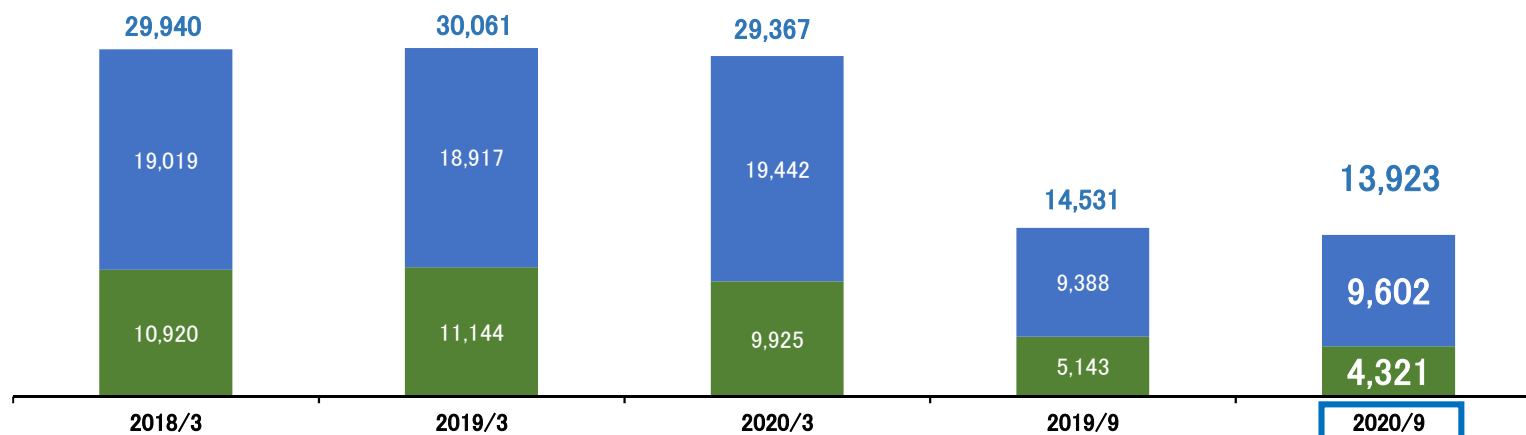


受注高、受注残高の推移

受注高

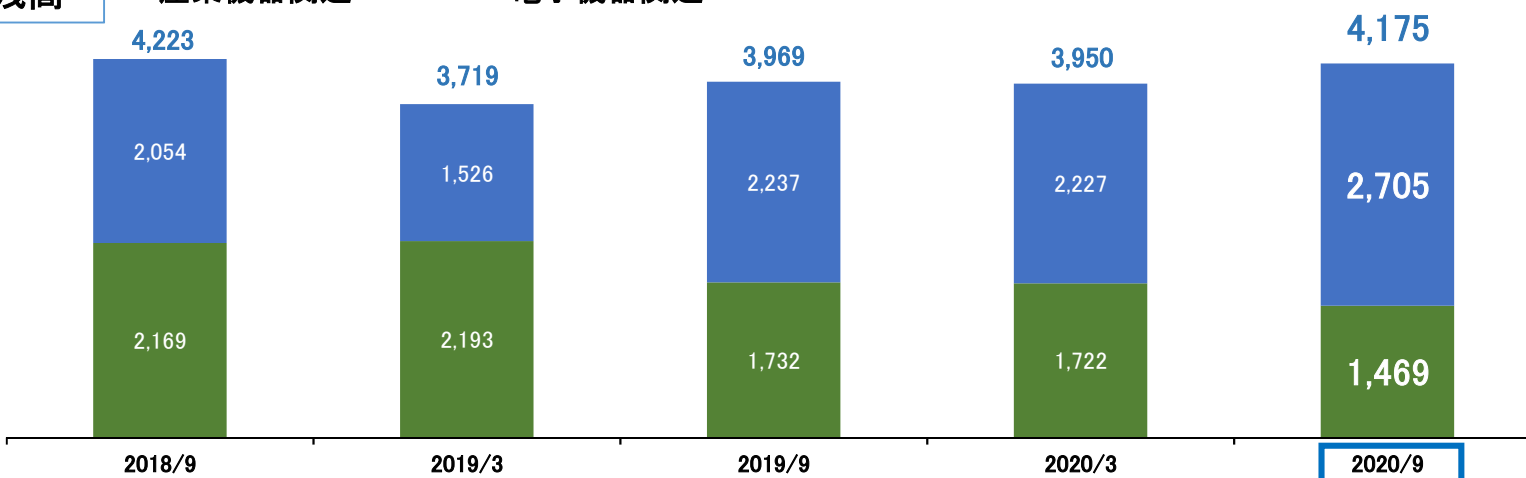
■ 産業機器関連 ■ 電子機器関連

(単位: 百万円)



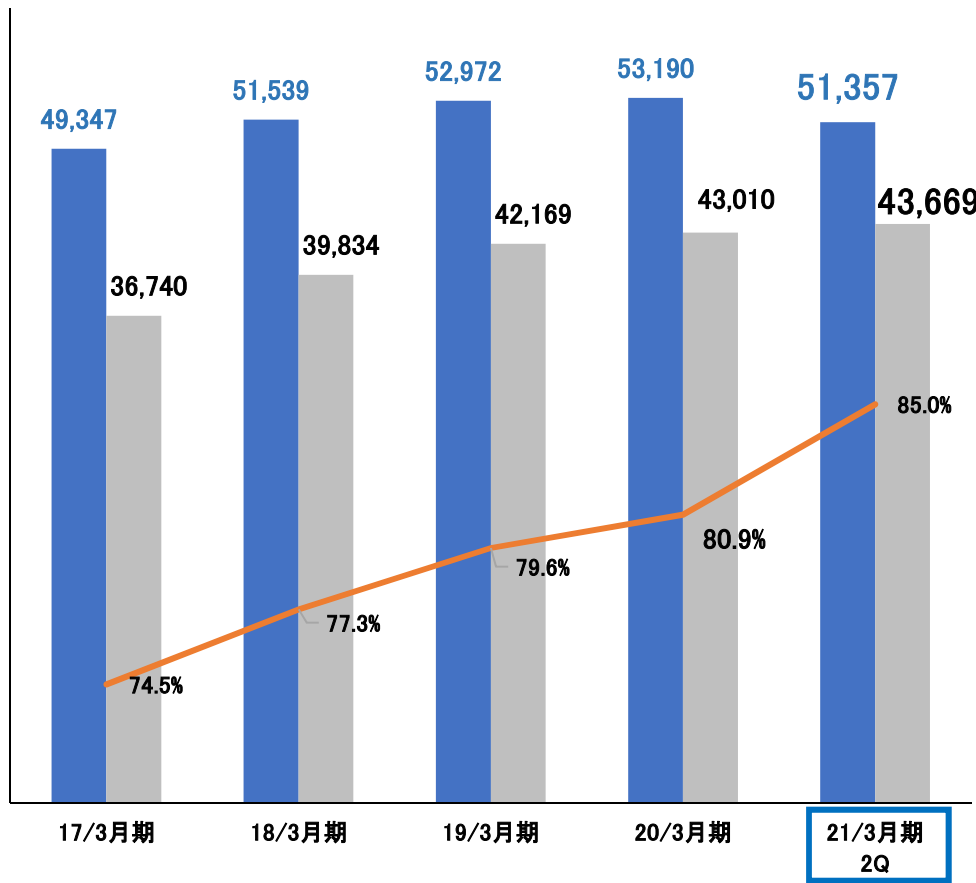
受注残高

■ 産業機器関連 ■ 電子機器関連



財政状態

■ 総資産 ■ 純資産 — 自己資本比率 (単位: 百万円)



ポイント

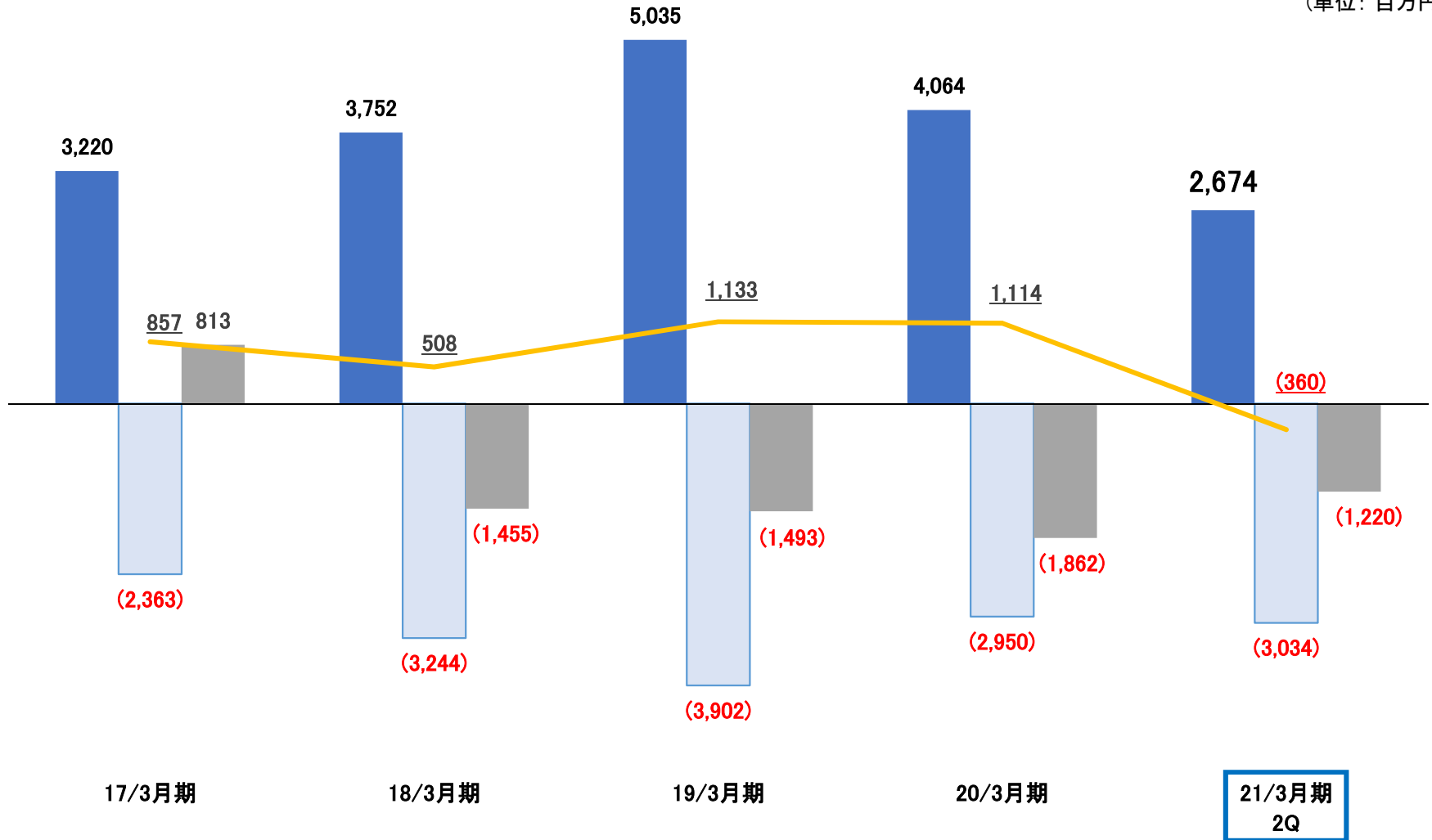
- ・総資産は約2.2億の増加
- ・有利子負債は約2.2億減少
- ・自己株式342千株(取得価額4.9億)取得
- ・自己資本比率85.0%

※「『税効果会計に係る会計基準』の一部改正」等を2019年3月期の期首から適用しており、2018年3月期の実績については、当会計基準等を遡って適用した後の数値を記載しています。

キャッシュ・フロー

■ 営業キャッシュ・フロー ■ 投資キャッシュ・フロー
■ 財務キャッシュ・フロー — フリーキャッシュ・フロー

(単位：百万円)



通期業績予測サマリー

(単位: 百万円)

	2020年3月期	2021年3月期	前年度比	
	<実績>	<予想>	増減額	増減率(%)
連結業績				
売上高	29,213	28,500	△713	△2.4
営業利益	3,683	3,600	△83	△2.3
営業利益率	12.6%	12.6%	—	—
経常利益	3,725	3,600	△125	△3.4
当期純利益	2,635	2,500	△135	△5.1
一株当たり当期純利益	108.57	104.42	△4.15	—
配当金	40	40	0	—

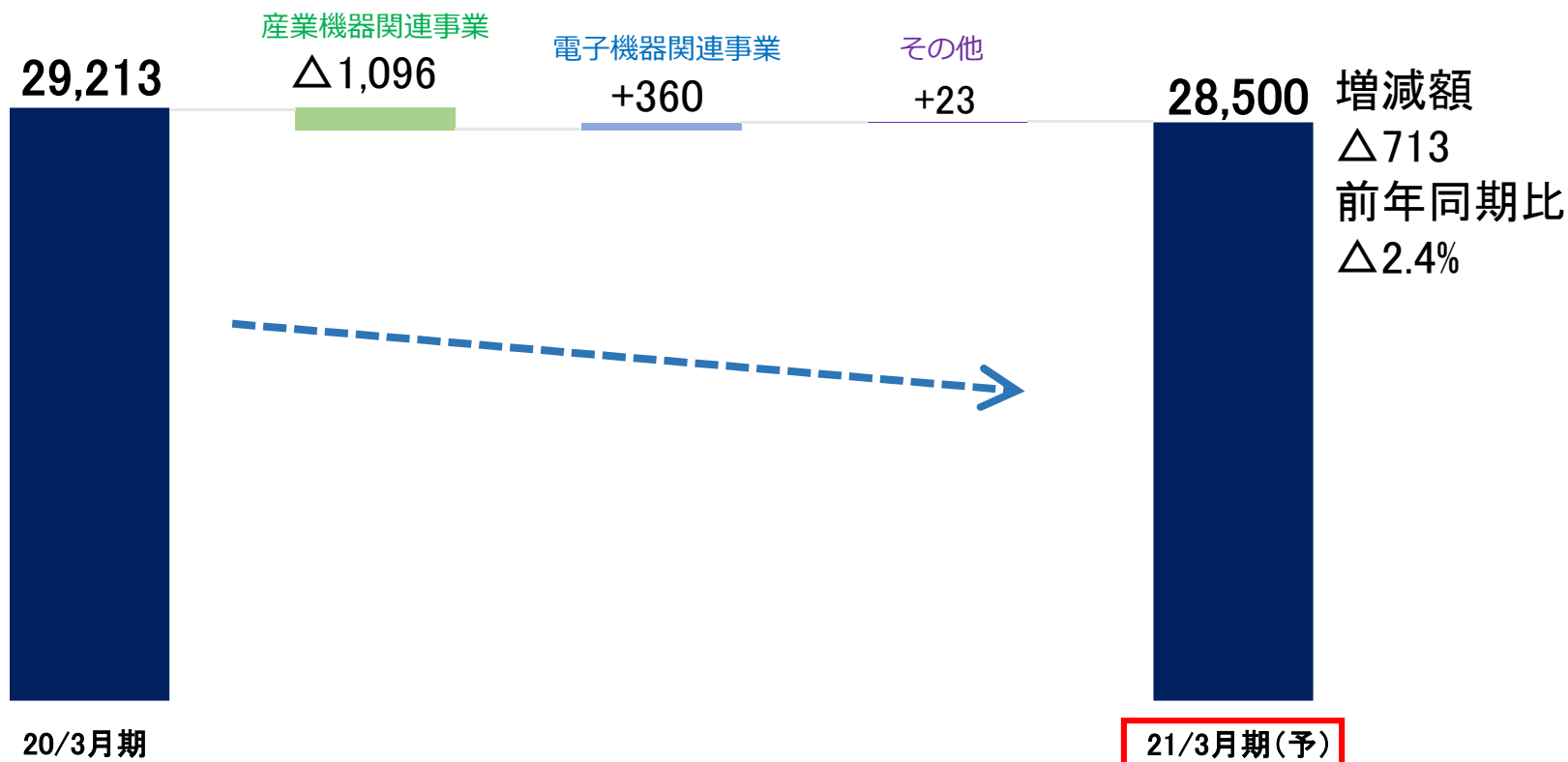
セグメント別

産業機器関連事業				
売上高	10,396	9,300	△1,096	△10.5
営業利益	1,314	800	△514	△39.1
電子機器関連事業				
売上高	18,740	19,100	360	1.9
営業利益	2,329	2,780	451	19.4

通期 売上高の増減分析

産業機器: 中国市場の回復に期待感はあるものの、全体として需要低迷
電子機器: 短期的な見通しは不透明ながらテレワーク需要に支えられ増収

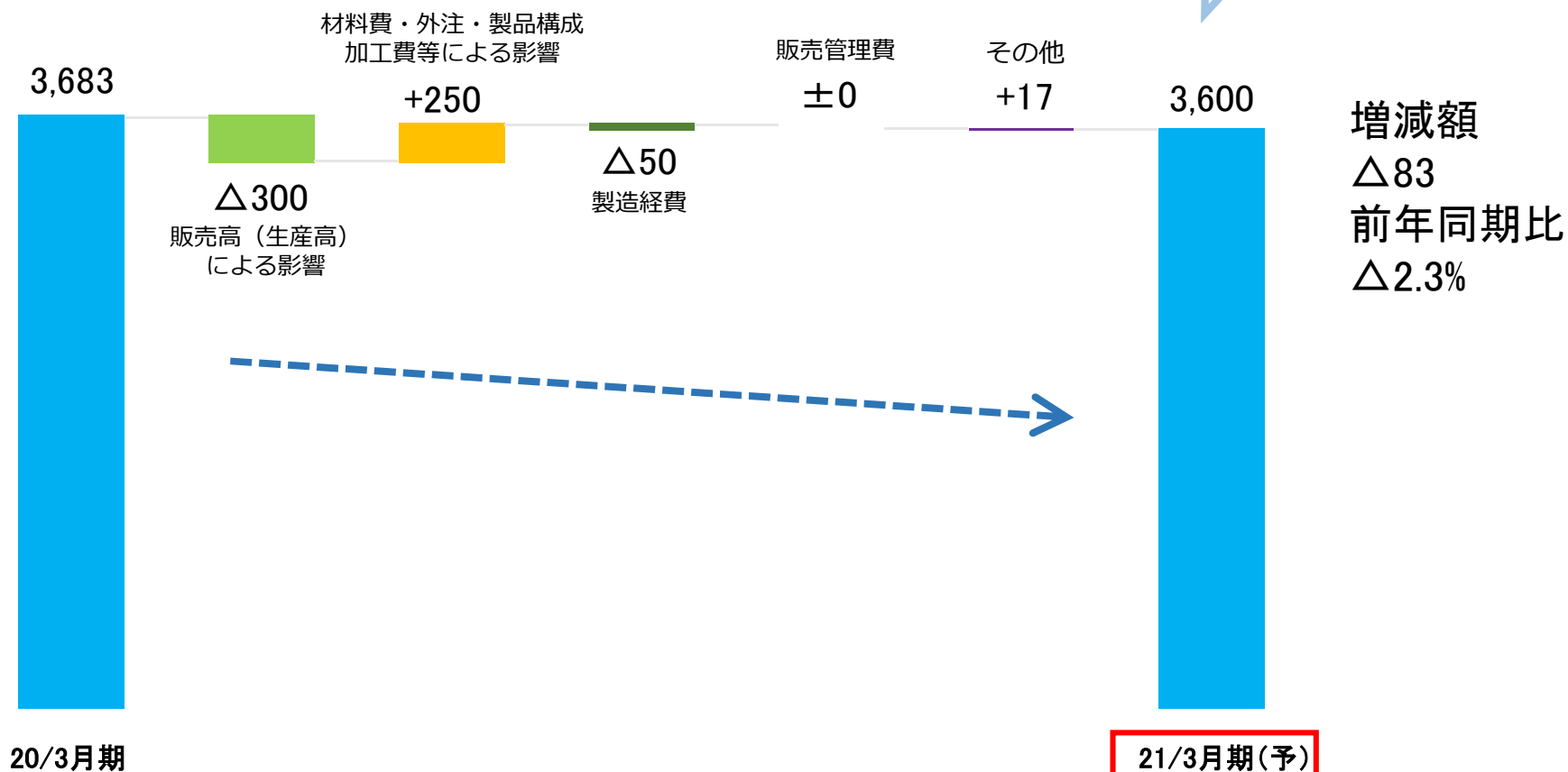
(単位: 百万円)



通期 営業利益の増減分析

産業機器事業の需要低迷が継続するも、半導体市場は底堅く推移
 新三田工場に関する償却費・租税負担及び活動自粛の緩和もあり経費増加

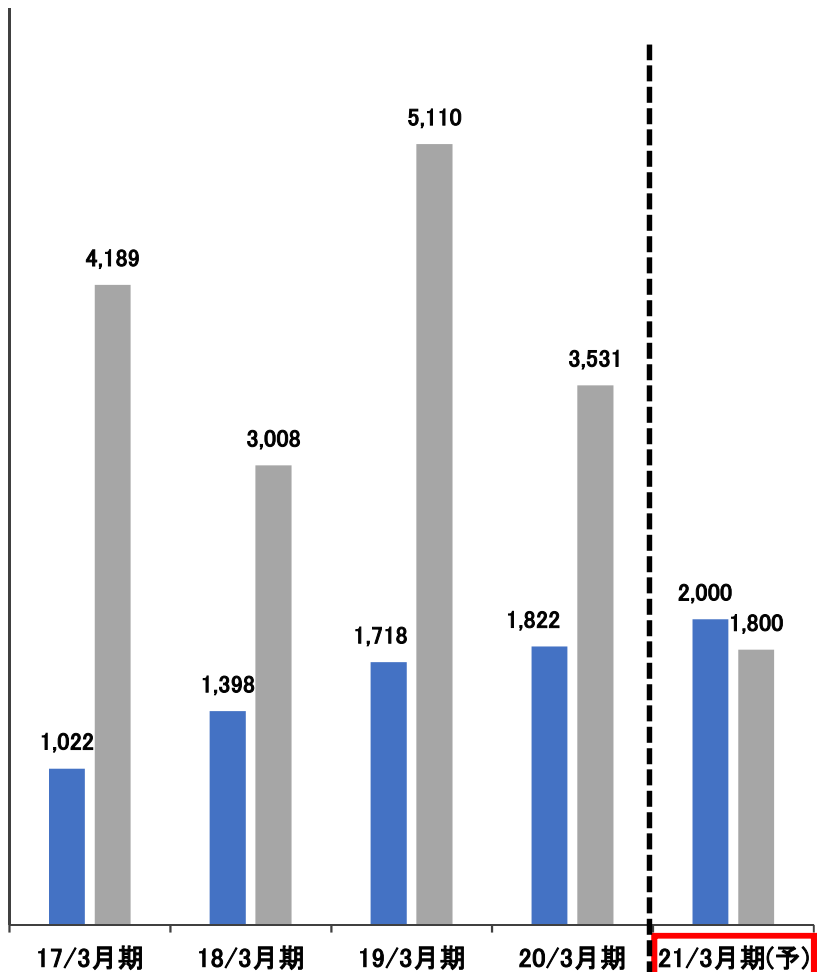
(単位: 百万円)



設備投資と減価償却費／研究開発費

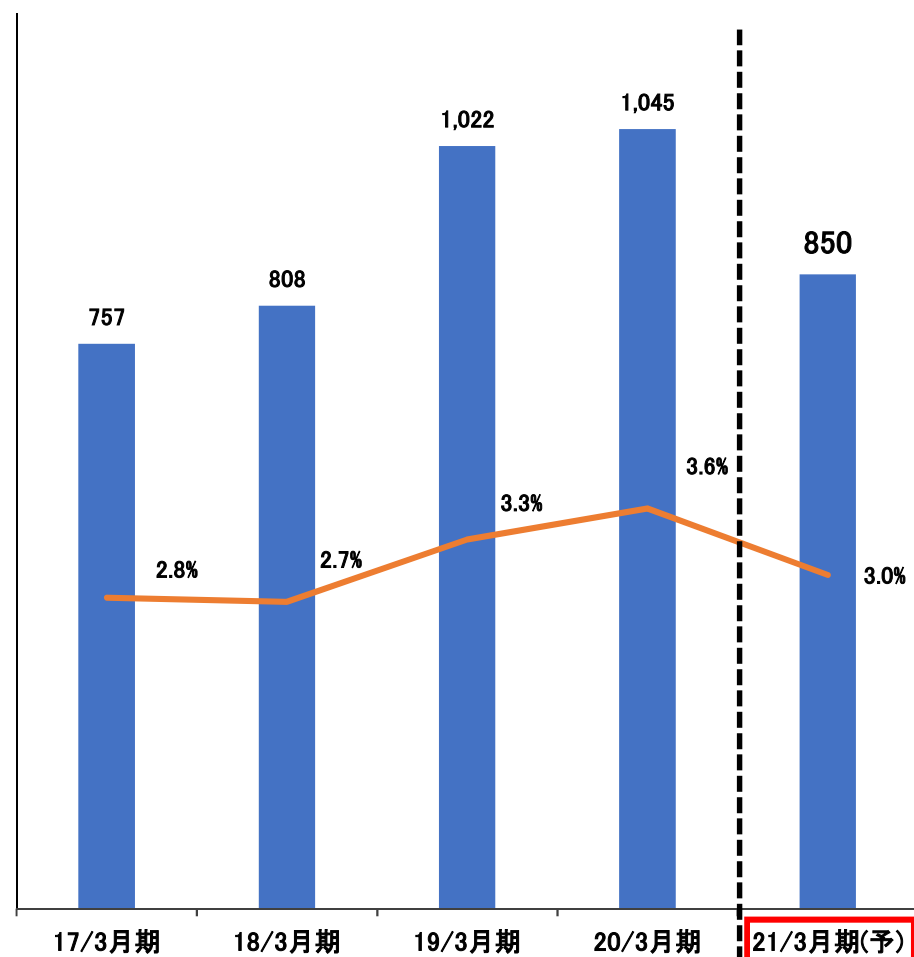
設備投資と減価償却費

■ 減価償却費 ■ 設備投資 (単位: 百万円)



研究開発費

■ 研究開発費 — 売上高比 (単位: 百万円)

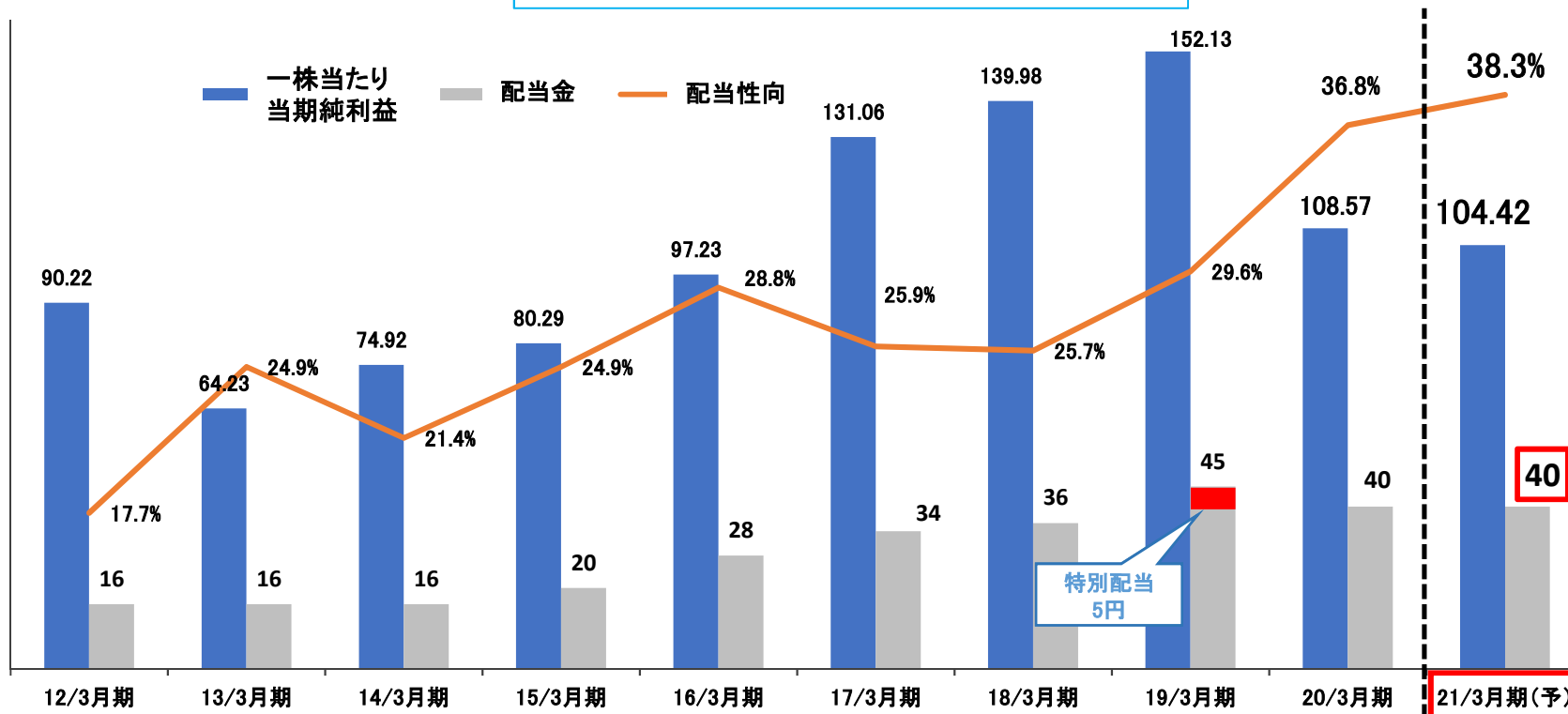


【配当方針】

- ・利益還元を経営上の重要課題の一つとして位置づけ
- ・配当は、配当性向30%以上を目標として実施
- ・設備投資、研究開発投資、事業拡大投資、株主還元などを総合的に勘案して実施

一株当たり当期純利益・配当金・配当性向

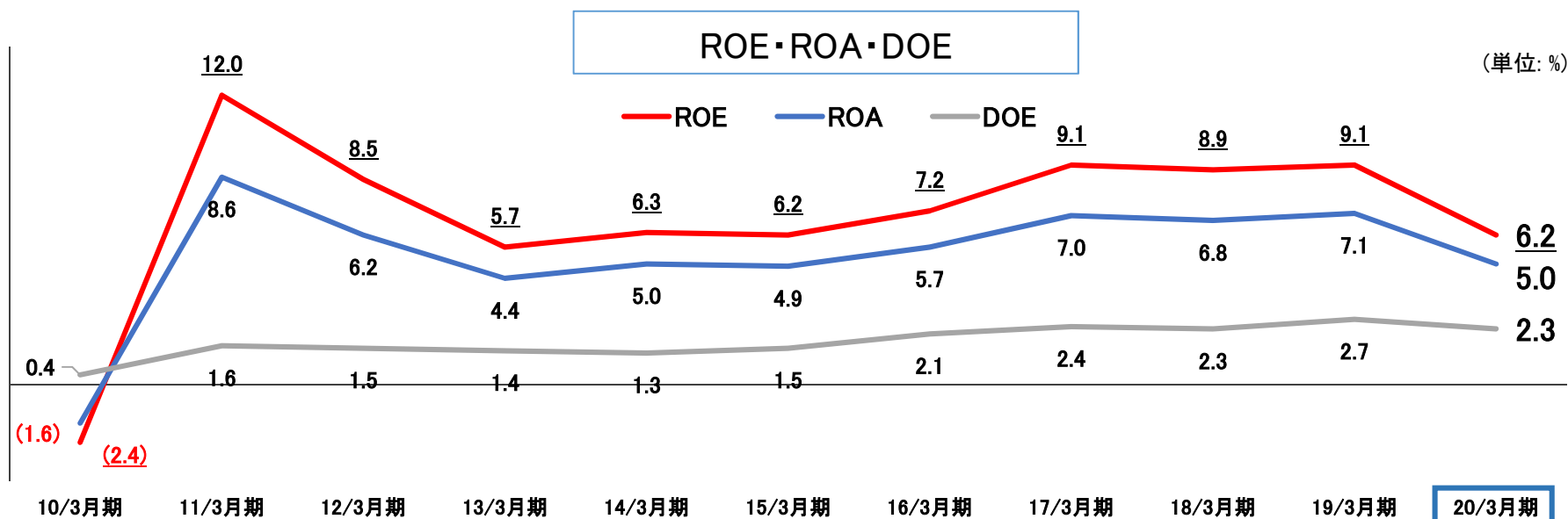
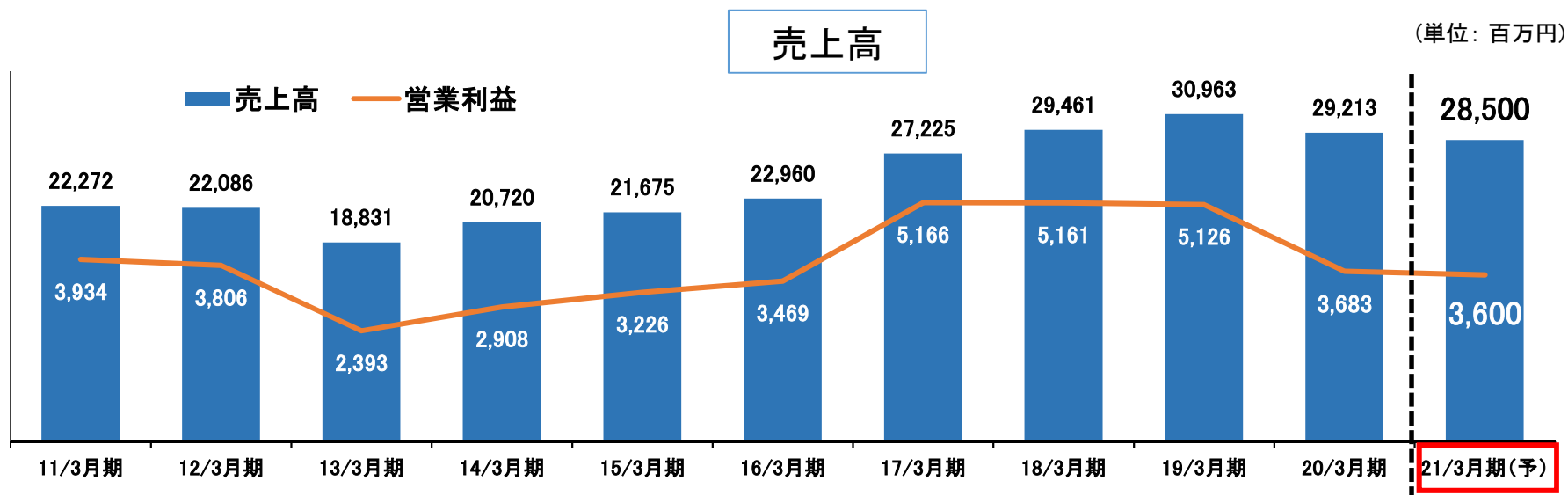
(単位：円)






















































4. 參考資料

主要指標の長期トレンド

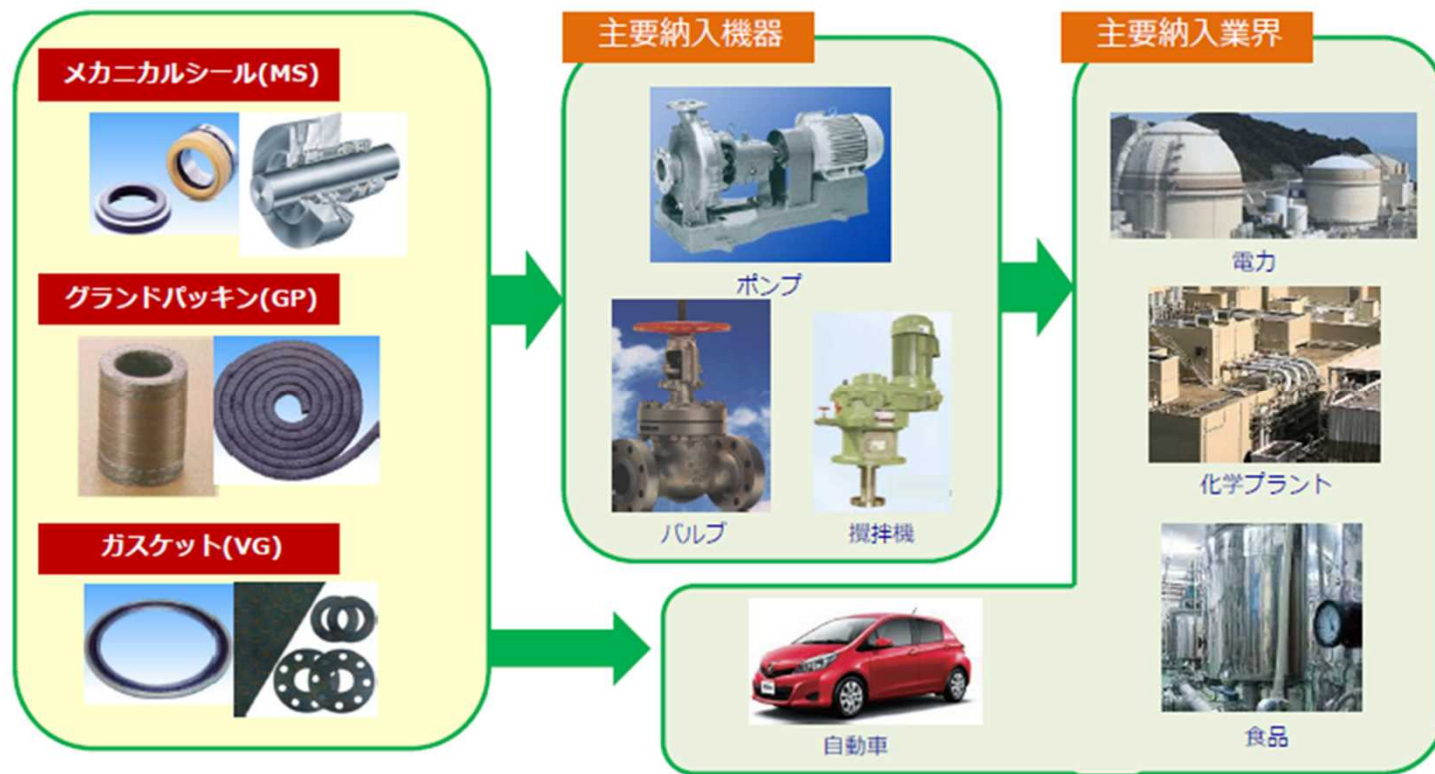


当社関係業界の事業環境の見通し

業界	2020年 1～3月	4～6月	2020年 7～9月	10～12月	景気予測			
産業・工作機械								新型コロナによる営業活動の制限は緩んだが、国内・欧米企業は設備投資の様子見を続けそう。業界では今秋にも底打ちするとの見方が広がるが、米中摩擦再熱への懸念は根強い。
電子部品・半導体								電子部品市場では需要動向は見通せず、先行き不透明感が漂う。新型コロナの「第2波」リスクへの警戒感も。半導体市場では在庫調整が進む見通し。5Gのインフラ投資が需要を下支えできるかが焦点。
電力								大手電力と新電力の販売競争による値下げで各社の収益力が低下。新型コロナによる経済停滞で法人向けの電力需要が減り、販売電力量も下落。原発の再稼働も想定通り進まず苦境が深まる。
自動車								一時は工場の稼働停止や販売店の閉鎖が世界中で相次いだものの足元では正常化に向かっている。多くの自動車メーカーが2020年度末に向けて段階的に回復するとみるが、見通し不安視する動きも。
プラント・造船								造船の商談は国内外で回復しつつあるが依然低水準。韓国や中国の造船会社による価格攻勢もあり船価低迷が続くが長期的には環境対応船の需要も。プラントでは好採算案件が減る可能性も有。
化学								自動車生産が復調し経済活動も再開したことにより市況は回復基調。ただし、航空機向けの炭素繊維や衣料品向け化学繊維には需要が低迷し、出荷は引き続き厳しい状況。
建設								新型コロナによる景気減速で、国内建設投資の約7割を占める民間投資の冷え込みが懸念。新規投資には様子見の姿勢。オフィス需要も停滞しており、先行きは好材料が乏しい。

※出所：日本経済新聞（2020年10月5日）「主要30業種の天気図（10～12月産業景気予測）」より当社関係業界を抽出

主要な製品と主な納入先（産業機器関連事業）



メカニカルシール・グランドパッキン

- ・ 高温・高圧の過酷な条件で流体の漏れを止める装置で、石油精製・化学プラントなどのポンプやバルブ等で使用されています。

ガスケット

- ・ 配管と配管の接続部から流体の漏れを止める機能部品であり、自動車の排ガス装置にも使用されています。

主要な製品と主な納入先（電子機器関連事業）



- ふっ素樹脂の特性である「耐薬品性」・「耐熱性」・「低摩擦性」を活かした製品群
- ・ふっ素樹脂製の継手・チューブ等は、多様な薬液に影響されないため、半導体の基となるシリコンウエハーの洗浄装置に用いられます。
 - ・低摩擦性を応用し、建物から地震の揺れを逃がす免震装置に用いられています。

社 是

- ・ 品 質 第 一
- ・ 和 衷 協 力
- ・ 一 歩 研 究

経 営 理 念

1. 住みよい地球と豊かな社会環境づくりに貢献します。
2. 独創的で高品質な製品を提供し、お客様にとってかけがえのない企業を目指します。
3. 法令・社会規範を遵守し、公正で健全な企業活動を行います。

社名の由来



船舶の蒸気機関からの漏れを防ぐシール製品として、創業時に開発した「ピラーパッキンNo.1」の形状が、柱状 (= P I L L A R) であったことから、日本ピラー工業と命名されています。

創 立	大正13年(1924年)
代 表 者	取締役社長 岩波嘉信
株 式	東京証券取引所市場第一部(証券コード:6490)
資 本 金	49億66百万円
事 業 内 容	流体制御関連機器製品の製造販売
従 業 員 数	809名 (連結:2020年3月末現在)
売 上 高	292億13百万円 (連結:2020年3月期)



流体制御機器関連メーカー
日本ピラー工業株式会社

(お問い合わせ先)
経営企画部
大阪市西区新町1丁目7番1号
TEL: 06-7166-8412
FAX: 06-7166-8510
URL: <https://www.pillar.co.jp/>

- ・本資料には、将来の業績に関する予想、計画、見通しなどの記述が含まれています。
こうした記述は、将来の業績を保証するものではなく、リスクや不確実性を内包するものです。
- ・将来の業績は、主要市場の経済情報、製品需要の変動、為替相場の影響、国内外の各種規制、会計基準・慣行等の変更により、大幅に異なる可能性があることをご留意ください。
- ・本資料は情報の提供を目的として作成したものであり、本資料によって何らかの行動を勧誘するものではありません。